はばたけ 川滝っ子

令和４年度
川滝小学校便り
３月号

私の名前

私は、みんなに「校長先生」と呼ばれています。しかし、名前は「校長」ではなくて、「鈴木幸徳（すずきゆきのり）」と言います。若い頃は「鈴木先生」と呼ばれていましたが、教頭の頃は、やはり「教頭先生」と呼ばれていて、私の名前を知らない児童や保護者も多くいました。役職名で呼ばれることは嫌ではないですし、しかたのないことだと思いますが、名前を覚えてもらえていないことは少し淋しい気持ちがします。そこで、名前を覚えてもらう機会になるとの期待も込めて、自分の名前に使われている「幸」の字についての話をしてみようと思います。この漢字は「コウ」や「さち」「しあわ（せ）」などと読み、意味は読みのとおり「幸せ」や「運がいい」などです。ところが、「幸」の漢字の成り立ちは、手の自由を奪うために使われた「手かせ（今の手錠に当たるもの）」から生まれた象形文字であると、多く書籍で紹介されています。全く幸せと結びつきませんが、昔の罪人に課せられた刑罰はとてもひどくて、「手かせ」で済むことは幸せだったので、「手かせ」＝「幸」なのだそうです。そう言われても良いイメージは持てませんね。しかし、何とか好感度を上げられないかと思い、「幸」をよく見てみると、上に「土」、下にも「土」の漢字が隠れています。そこで、上下に土がある状況がどこかにないだろうかと探ってみると、思い浮かぶ景色がありました。それはちょうど今の季節に見られる芽生えの瞬間です。地面から出てきたばかりの芽はまだ土をかぶっていて、ちょうど上下に土がある状態です。芽生えとは、草木が誕生することですが、誕生と言えば、（自分が生まれた時のことは覚えていませんが）わが子が生まれた時のことはよく覚えています。うれしくて、本当に「幸せ」でした。まさに「芽生え（生命の誕生）」＝「幸」ですね。生まれた時、子どもたち自身は「幸せ」だったでしょう。そして子どもたちは、親にも「幸せ」を運んできてくれました。さらに言えば、生まれた時だけでなく、今生きていること、そのものも「幸せ」です。その成長を見届けられている私たち親も「幸せ」です。私は、「芽生え」こそが「幸」の漢字の成り立ちと思いながら、次々「幸せ」を見付けたいと思います。私は「幸」の字が入っている自分の名前が、やっぱり好きです。どうですか。私の名前は覚えられましたか。

給食物資入札会に参加して

３月９日の給食

先日、給食物資入札会に参加してきました。まずは「このように丁寧に審査して決めていたのか」と感心しました。一つ一つの食材を見て、匂って、食べて、その品質や値段などを総合的に判断して、みんなで話し合って決めていました。ありがたいです。もう一つ知っておいてほしいことがあります。食材そのものは、もちろん食べられるけれど、味が付いていないので、決しておいしいとは言えません。おいしい給食が食べられるのは、献立を考えてくれている栄養士さんや調理員さんのおかげだと、よく分かりました。給食に関わっている皆さんに、いつも感謝の気持ちを持って、給食を頂きたいと、改めて思いました。

ホームページもご覧ください。　https://kawataki-e.esnet.ed.jp/